

第5回庄川流域懇談会 議事要旨案

開催日時：平成20年3月24日（月）14:00～16:00

場 所：高岡平安閣 4 F 「平安の間」

- 議事次第： 1. 開会
2. 挨拶
3. 出席者の紹介
4. 議事
 ①地域住民の意見聴取結果について
 ②庄川水系河川整備計画（案）について
 ③費用対効果について
5. 閉会

【主な意見】

【庄川水系河川整備計画（案）について】

（委員A）

- 地域住民からの意見が多くあり、非常に関心が高いことに驚いている。懇談会や地域住民の意見を聞いた感想をお聞かせ願いたい。

（座長）

- 整備計画に直接反映する意見は限られており、そのほかの意見が多くあったと見ている。

（事務局）

- 身近な維持管理に関する意見・質問が多くあったという印象である。普段から川を良く見ている、河床が下がって水面の幅が狭くなり、水量が少なくなっているように見えるなどの意見もあった。
- また、維持管理や河川整備に対する素朴な疑問・質問もあり、ご説明して河川管理の考え方をご理解頂くことも多かった。今後、整備計画等に関する意見や質問に対して Q&A など公表していくことが重要であると考えている。
- 人の集まりやすいところで、説明時間を長く取っていたことにより、説明会場に足を運んで頂きやすかったため、意見が多く頂けたと考えている。

（委員A）

- 流域懇談会や地域住民からの意見を記録しておくという考えはないのか。例えば、「いつ実施してどのような意見があり、これらをどのように整備計画へ反映させたか」などを載せることはできないか。
- 最終成果だけでは、何か物足りないように思う。

（事務局）

- 貴重な意見をいただいたので、まとめ等を工夫して参考資料として残していくように考えていく。

(座長)

- 地域住民からの意見のまとめや、それらに対するQ&Aを公表していくことは良いことと思うので、地域の方々からの意見に基づいて河川整備計画をつくっていることを説明されたらいいのではないか。
- これまで、関心をもって議論していただいた主要なものは、河川整備計画(案)の中で対応されていると思う。
- 懇談会における補足説明資料などの今後の扱いについてはどのように考えているのか。

(事務局)

- 懇談会の資料は、補足的な説明資料も含めて事務所のホームページで公開していきたい。

(委員B)

- 漁業関連の代表として、いろいろ意見をいつてきたが、これらの意見が反映されていることに安堵している。
- 和田川には満々と水が流れているのに、本川の庄川では夏場の渇水時に水が少なくなるので、水のない川は川ではないということから、水量の確保について確実になるような記載をお願いしたい。

(座長)

- 水量の確保については、地下水の観測をはじめモニタリングと管理の視点は盛り込まれていると思う。現状を踏まえた改善方策や利賀ダムの運用の高度化なども含めて対応していくことが記載されているので、要望は盛り込まれていると考えられる。
- 「松川除け」は、砺波市の文化財としての史跡に指定されたのかどうか、現状を知りたい。

(委員C)

- ありがとうございます。現状を変更なく保存するというのではなく、歴史的に重要な箇所であるといことを皆さんに知っていただくという趣旨で、地元では活動している。

(委員D)

- 森林の面積が記載されているが、その森林の内容について今後整理が必要なのではないか。例えば、水源涵養という観点で見ると、人工林や自然林、広葉樹や針葉樹など森林の樹種などの構造を把握することが必要ではないか。

(事務局)

- 流域の植生について、部分的な植生図などの資料はあると思うが、流域全体の樹種の最新資料は整理されていない。課題だと思う。渇水時には、木の生長のために水量が減るようなこともあるので、これらの森林としての機能に

ついて定量的な評価については、さらなる研究が必要であると考えている。

(座長)

- データについては蓄積していくことが必要である。

(委員A)

- 森林の機能は、樹種だけではなく表層土壌の状態やその下にある岩盤の状態によっても大きく異なるので、樹種を整理すればよいという簡単なものではなく、非常に難しいのではないか。
- また、富山県としては人工林の面積が 19%と少なく、林業という面でも規模が小さく効率も悪いので、産業としても成立しにくい面があると言われており、難しい話だと思う。

【費用対効果について】

(座長)

- 河川整備計画の費用、利賀ダムの費用、代替案比較における整備費用の関係を教えて欲しい。

(事務局)

- 河川整備計画の費用は、あくまで治水整備に関する費用のみを計上しているのに対して、利賀ダムの費用には、治水のみならず流水の正常な機能の維持を図る不特定補給の費用も含まれている。
- 代替案比較における整備費用は、戦後最大規模の洪水への対応を目標とした河川整備計画（案）には入っていないが、計画規模への対応に必要な整備費用が含まれている。

(座長)

- 今後 30 年間の整備効果を示しているが、人口などは減っていくという予測との関係はどのように考えているか。

(事務局)

- 便益としては一般資産のほかに公共土木施設の被害も含まれており、北陸新幹線の整備や道路整備なども予定されている。流域の資産が大幅に減少することはないと考えている。
※河川整備計画策定後も最新のデータで5年毎に事業再評価を行うこととなっている。

(座長)

- コメントだが、巨石を活用した河岸侵食対策は、多自然川づくりの趣旨にも合うのでそういう位置づけをしていくと良いと思う。
- 本日の「庄川水系河川整備計画〔大臣管理区間〕（案）」を基本として策定

することでよいか。

(委員一同)

➤ 異議なし。

(座長)

- 河川整備計画の基本的な考え方として、考慮して行くべき範囲については、懇談会での意見を取り入れていただいている。治水、利水及び河川の自然環境や地域の方々の活動、これらを広く言えば流域の資産という面で、住民に目を向けたきめ細かな整備計画になってきたと思う。
- 今後30年は、今回の河川整備計画(案)が基本となり整備が進むものとなるが、今後も地域の方々の意見を把握するとともに連携を図り、より良い庄川となることを期待して、庄川流域懇談会を閉会する。

－ 以 上 －